

HANDAS ON!

2025 AUTUMN / TAKE FREE

発行 / 半田市 企画・編集 / ココリン(半田市創造・連携・実践センター)

まちに彩り、少しずつ。
あなたの絵筆は何を塗る？



中心市街地に 緑スポットが増えてきた？

まちと奏でる、わたしの物語
農家の嫁 堀江 尚美さん
お食事処 やまと 竹内 三津代さん

半田から広がる「発酵」のまちづくり
特定非営利活動法人半田市観光協会
榊原 宏さん

セミナーレポート
空白から余白。
余白から色彩あるまちへ

半田運河発酵マルシェ(2025年7月開催)の様子

半田市中心市街地活性化情報誌 HANDAS ON! 2025年AUTUMN発行 発行:半田市 企画・編集:ココリン(半田市創造・連携・実践センター) 〒475-0853 半田市南末広町120番地の4(おおまた公園北側)

TAKE FREE

みんなのひろば

Q1. 半田市中心市街地って、
どこからどこまでか知っていますか？

知多半田駅西側の雁宿公園あたりから旧半田市民病院のあった半田運河あたりまでが、半田市の中心市街地です。訊いてみた中で、「知らない」と答えた方の中では、東の端を「JR半田駅まで」と思っている人が多かったです。南北の境も含め、正しい位置は右の地図です。皆さんのイメージとは一緒でしたか？



半田市中心市街地活性化基本計画より

Q2. 半田市中心市街地の中で、好きなモノ、コト、人、場所などは何ですか？



美味しいものやきれいな場所はうれしいですね。ココロリンも挙げていただき、ありがとうございます!(編集より)

ハンズオン 写真部発足

2025年の半田市 中心市街地写真を 募集します!

応募方法 #ハンズオン写真部 #ハンズオン応募 と添えて、Instagramに投稿してください。どんな写真が分かるよう、投稿文に記載をお願いします。

応募締切: 2026年1月31日
ハンズオンvol.3に掲載させていただく方には、InstagramのDMにてご連絡し(2026年2月頃予定)、掲載のお礼としてココリンのワーキングスペース1日利用券を差し上げます。

中心市街地のまちネタ募集中!

ハンズオンは、年2回発行の半田市中心市街地活性化情報誌です。半田市の中心市街地の「今!」を伝えるネタを常時募集しています。「こんな素敵な人がいるよ」「こんなお店ができたよ」「こんな活動始めたよ」「これ詳しく知りたいな」など、ぜひお寄せください。

※タイトルに「ハンズオン情報提供」と入れて下さい。
※取材させていただく場合はあらかじめこちらからご連絡いたします。



◎発行 / 半田市
◎企画・編集 / ココリン(半田市創造・連携・実践センター)
営業時間: 10時~19時 休館日: 火曜日、年末年始
〒475-0853 半田市南末広町120番地の4(おおまた公園北側) 名鉄知多半田駅より徒歩約3分・JR半田駅より徒歩約4分
◎事務局 / 一般社団法人はんだのたね
◎お問い合わせ / 半田市役所 市民経済産業課 TEL.0569-84-0634 ココリン TEL.0569-77-2363
はんだのたねは、指定管理者としてココリンの運営管理を行う、エアマネジメント会社です。

編集後記

今号も読んでいただき、ありがとうございました。目の前の庭がきれいになったらいいな、ひと坪のお店からでもやってみたいな、そんな小さな一歩が、まちを少しずつ創っていくんだなと感じます。中心市街地には、まだまだ関われる余白がいっぱい。自分の好きなことや得意なこと、できることで、何か関わってみると、より楽しい未来が見えてくるかもしれません! (ココリン / 田代)

中心市街地に緑ス。ホットが増えてきた？

「半田市中心市街地」。都会的な響きがしますが、以前の市民ワークショップで描いた夢の未来図には、緑がいっぱい描かれていました。今、中心市街地の緑はこうなっているのか？

半田市観光ガイド協会メンバーであり、「ちい森」にも所属するはまちちゃんこと濱口よしえさんの案内で散歩してみました。



通称「グレンコーの庭」

グレンコーの庭周辺 道行く人が癒されたり ホットと休憩できる場に

「グレンコーの順子さんが、本当に一生懸命面倒見ていらっしゃるんですよ」と、濱口さんが案内してくれたのは、通称「グレンコーの庭」。JR半田駅西側、喫茶店「グレンコー」のすぐ南にある市有地です。順子さんはお店を開いてから20年以上、少しずつ手入れしてきました。「はじめは荒地のような場所だったんですよ。線路と店の間の道も含めて、歩く人が少しでも良い気持ちになつたらと、はんだクリンボランティアに登録して整えてきました。もともと自然が好き順子さん。スタート時は「きれいになったら、嬉しいよね」というシンブルな想いだけだったそう。続けるうちに手伝ってくれる人が増え、2024年の秋からは、ちい森メンバーと一緒に取り組むようになりました。「人と人との間に花や緑があると、おしゃべりも弾む。こういう、楽しくて、自然な広がり方っていいなって思っていますよね」と順子さん。「誰でもいつかは動けなくなる。そうしたらま



グレンコーの加藤順子さん

か関わったら良いと思うんですよ。自分たちらしい森が作っていきけるって、素敵なことじゃないですか」今年ちい森が加わってからは、「どんな庭にしたいか」という計画も、より具体的に話をするようになったそう。今年は、土留の役割を期待しながらクローバーの植栽をしたり、休憩できるようにベンチの設置をしたりしたそう。「全然知らなかった人たちとも作業をして、輪が広がっていくのが楽しいですね」と順子さん。あなたも加わってみてはいかがか。



ちい森プロジェクト(ちい森)がグレンコーの庭で活動



夢の未来図(知多半田エリア/未来づくりワークショップ2024年)



濱口よしえさん

ちい森ってなあに？

半田市の中心市街地を拠点とするまちづくり市民活動団体「コトコトラボ」の活動のひとつで「ちい森プロジェクト」を略して「ちい森」。地域に緑豊かな場所を創出する活動をしています。



©KOTOKOTLABO_HANDA

左記のQRコードからコトコトラボのInstagramが見られます

おおまた公園

人工芝の上でゴロン 「実験の庭」へ進化中

名鉄知多半田駅とJR半田駅の道沿い、ココロリンの向かいにあるおおまた公園。ここに5月、人工芝が出現！これはココロリンが「公園の新たなすこし方」の実証実験として行っていることのひとつで、自治区や商店街、コトコトラボの人達と一緒に敷いたものです。すると少しずつこれまでになかった風景が見られ始めました。散歩でやって来た園児たちの走り回る様子。輪になっておしゃべりする学生たち。ゆったりとした空気が流れています。



市民ワークショップの様子



みんなで敷いた人工芝の上で楽しそうな大人たち

秋から自然を楽しめるスポット

半六庭園



半田運河沿いにある、緑豊かな庭園。「夏ミカンやなつめなど、実のなる木が多いんですよ」、濱口さん。紅葉は毎年12月ごろ。9:00~17:00 入園無料。

ココロリン前の 並木道



11月頃から大きな葉が黄色や赤へと色づき、美しい並木道に。朝晩の通勤時も季節を感じながら歩ける。

半田の ソトを見てみよう！

中心市街地市長特任顧問 伊藤 大海

まちづくりの仕事始めてから46の都道府県を訪問しました。まちなかに気持ちよい緑が多いのは意外にも東京都心だな、というのが率直な感想です。

一方、地方にも印象に残ったまちがあります。

民家の庭をオープンガーデンにしている長野県小布施町。公民連携で駅前にガーデンを運営する小諸町。そして、家々の格子窓にさりげない一輪の花を飾る岐阜県飛騨市古川町。いずれも住民が植栽を進んで活用している。古川町で出会った住民の女性の言葉が忘れられません。「このまちを好きだからよ。こうやればきれいになるよね、って自然体でやっているだけ」。潤いある日常はまちへの愛着があればこそ。愛着は自ら作るもの。それを学んだ出来事でした。

～歩いてみよう～

喫茶グレンコー：半田市北末広町113-7 / おおまた公園：半田市南末広町27 / 半六庭園：半田市中村町1-7 / ココロリン：半田市南末広町120-4

まちと奏でる、わたしの物語 ～半田市中心市街地のステキビト紹介～

仕事帰りの人も、来訪者も、「おかえりなさい」って迎えたい

昼さがり酒場 農家の嫁
立ち呑み 農家の嫁

堀江 尚美さん
(ほりえ なおみ)



「おかえり！いつもの一杯でいいかな」「一週間お疲れさまでした！」店主の堀江さんの、明るい声が響きます。クラシティー1階の角にある「農家の嫁」居酒屋としてはまだ早い15時からオープン。仕事帰りやビジネスで半田を訪れる人たちが一杯飲みに行っています。オープンした5年前から、メニューを少しずつ改良してきました。

「野菜や地元の醸造品など、できるだけこの地域のものを使うというこだわりは変わらないです。日本酒の品ぞろえは増えましたね。知多半島7蔵の日本酒を飲み比べできますよ」

クラシティーに店を構えたのは、知人からの紹介がきっかけです。ここは知多半田駅すぐでビジネスホテルも多く、金融機関や市の機関もある。だからこそこのまちの人にも、仕事などで半田に来る人にも、抛り所のような場所になれたら」

今年3月には、知多半田駅東口降りてすぐの場に、立ち呑み専門店をつくりました。駅に着いてまず一杯という人や、飲み会前の0次会などで利用する人



昼さがり酒場 農家の嫁

知多半田エリア
昼さがり酒場 農家の嫁
半田市広小路町155-1
クラシティー1階
0569-58-8411
15:00～22:00
日・不定休



立ち呑み 農家の嫁

知多半田エリア
立ち呑み 農家の嫁
半田市広小路町151-15
0569-58-8411
水木金17:00頃～22:00
土……16:00頃～22:00
日・月火休



Instagram

が多いそう。「立ち呑みを始めてから、気づいたことがあるんです。座って飲むよりも、お客さん同士の会話が弾むことが多いんですよ。袖振り合うも他生の縁。旅先で、日常の「コマ」でいつもと違う会話ができるのは、楽しいことでしょう。そこにはいつも、間に入るスタッフさんの姿が。「整然とはしていなかったけれど、エネルギーがあつたら嬉しいですね」。今日もまた、このちよつど良い距離感に、ここを馴染みの店にするファンが増えています。

店は人生そのもの
区画整理後のまちで店再開

お食事処 やまと

竹内 三津代さん
(たけうち みつよ)



「チラシを1から自分で作るなんて初めて。インスタも始めたんですよ。やまとの女将さん・三津代さんはやる気満々。JR半田駅の改修に伴う区画整理で店舗を移転、旧店舗から250mほど北の場所に店を建て、今年7月に開店しました。「お客さんがうなぎを待つことから、大将が7月に店開けるぞって言うからって、」

知多市出身の三津代さんにとって半田市の中心市街地は、学生時代の思い出がいっぱい詰まった場所です。「大将(夫の鶴幸さん)と高校が一緒に付き合ひ始めて。喫茶店で鉄板スパを食べたりしたよ。あの頃はアーケードがあつてね。大将は雨が降つても傘まで傘無しでいける。なんて自慢げだね」。

夫の鶴幸さんにとっては、やまとの旧店舗は生まれ育った場所であり、高校時代からは三津代さんと一緒に手伝つてきた場所。両親が創業守つてきた店を閉めることになった時、「次もこの近くでやるぞ」と即断だったそうです。「私たちももうすぐ70歳ですよ。隠居したら?と言われたりもしたけど、やまとは大将の人生そのものだし、待っていてくれる人がいるんだから、できるところまで2人で頑張ろうじゃない?」。

新店舗を開けるまでの1年と少し。2人はこれまでゆっくりできなかった分の休みを満喫しました。「初のマンション暮らし。兄妹と富士山に登ったり、図書館やジムに通ったりできて良かったわ。それでも少ししゅんとした気持ちもあつたそう。それが新店舗をオープンすると、急に元気が湧いてきたそうです。「厨房で目一杯動いて、お客さん迎えてね。やっぱりこれが幸せだわ。この辺りもこれからお店が増えて、賑わいが出てくるんじゃないかね。今日も三津代さんは、しゃきしゃきと明るく店内を動き回っています。」



ランチ(1000円)。それ以外も定食多数



旧店舗の頃。厨房での鶴幸さん

JR半田エリア
お食事処 やまと
半田市東天王町2丁目5-1 0569-23-1615
11:00～13:30 17:00～21:30 水木休



中心市街地全域 商店街

12月のレシート、捨てないで！にぎわいキャッシュバックキャンペーンで金券に

にぎわいキャッシュバックキャンペーン

■抽選日/2026年1月10日(土) 10:00～15:00
■抽選会場/クラシティー1階 にぎわいテラス
■レシート対象期間/12月1日(月)～12月31日(水)

Instagram

クラシティー、半田駅前商店街、半田ランプリングタウン商店街、半田中町商店街の対象店舗で購入した時のレシートをもって後日抽選会へ。抽選結果に応じてレシート合計額の何割かが「にぎわい商品券(対象の店舗で使える商品券)」でキャッシュバックされます。特賞はなんと還元率100%です！

2025年9月1日(月)～9月30日(火)のレシートが手元にある方は、そちらも対象となりますので、一緒に抽選会にお持ちください。

■主催/半田市中心市街地商業活性化にぎわい事業実行委員会 ■問合せ:同委員会事務局の半田商工会議所 0569-21-0311

知多半田エリア

夜のイルミネーションがきれい
ランプリングフェスティバル

■日時/11月22日(土) 16:00～20:00
■場所/知多半田駅東ロータリー周辺

半田ランプリングタウン商店街が今年も開催！知多半田駅前～JR半田駅のガード付近まで、イルミネーションの点灯された道を一緒にパレードしちゃおう。ステージイベントやキッチンカーもお楽しみに。イルミネーション点灯式は17:00を予定。

■問合せ:同商店街理事長の岸田さん TEL 090-3932-6520

半田運河エリア

お酒を飲み比べ、文化も知ろう
半田運河 新酒・地酒まつり

■日時/10月4日(土)、5日(日) 10:00～16:00
■場所/國盛酒の文化館・半六庭園

「國盛 本醸造 新米新酒あらばしり」の有料試飲をはじめ、知多酒の試飲販売、地元醸造品・農産物を使ったグルメブース、醸造文化の展示などを開催予定です。

■問合せ:半田市観光協会 TEL 0569-32-3264

中心市街地のニュースやイベントはこちらをチェック！

半田から広がる「発酵」のまちづくり

INTERVIEW

今年5月から7月にかけて開催された「発酵ツーリズム東海」。東海3県の関連スポットには約12万人が訪れ、発酵文化を軸に地域の魅力を全国へ発信する機会となりました。その舞台のひとつが半田市。今回はこの取組を支えた半田市観光協会の榎原宏さんにお話を伺いました。

すし文化と旨みの多様性、半田が示した可能性

榎原さんはまず、「これは2か月間の出来事ではなく、5年間積み重ねてきた活動の集大成でした」と振り返ります。全国で活躍する発酵デザイナー・小倉ヒラクさんの視点を通じて、半田の強みが外部から整理され、来場者が体験を通じて評価してくれたことが最大の成果だったといいます。

特定非営利活動法人
半田市観光協会
榎原宏さん



特に印象的だったのは、5月に開催された「世界SUSHIサミット」でした。榎原さんは「半田を中心としたすし文化のポテンシャルが改めて示されました」と語ります。日本各地の郷土すしに関わる研究者や職人が集まり、半田の歴史や文化と重ね合わせて議論が交わされました。背景には、ミツカン創業者・初代中野又左衛門が酒粕から粕酢をつくり、江戸へと運んですし文化の発展に大きく寄与したという物語があります。「半田はすしを語るにふさわしい」といいます。

わしい土壌を持つ街であると、改めて伝えられたのではないだろうか」と続けます。もうひとつ浮き彫りになったのが「旨みの多様性」です。「みりんや味噌、たまり、白しょうゆなど、多彩な蔵元が30分圏内に集まっているのは全国的にも珍しい。半田がその中心にあると改めて感じました」と榎原さん。発酵ツーリズムを通じて、この地域の食文化の豊かさが広く認識されたことは大きな成果でした。7月には「半田運河発酵マルシェ」も開催されました。「東海3県の蔵元が集まったこと自体が特別で、来場者も出展者も運河の景観に感動していました」と榎原さん。規模こそ大きくなくてもSNSでの反応は非常に高く、首都圏や関西など遠方からの来場者も多かったそうです。



半田運河発酵マルシェのようす

観光から食卓へ——発酵文化が描く未来

今後の展開について榎原さんは「観光客への発信だけでなく、地域の人こそ発酵文化の価値を伝えていきたい」と強調します。家庭の食卓や地域の飲食店で発酵食品を楽しむ風景を広げることが、半田らしいまちづくりにつながると考えています。「半田運河の圧倒的な景

観とともに発酵を楽しむ食卓の風景を生み出していきます。そんな未来を、地域の方と一緒に描いていきたいですね」と笑顔で語ってくれました。



_unga (スペースラंग)には地域の発酵調味料がずらり

発酵と暮らし

おばあちゃんから聞いた話です。戦後の頃は多くの家で味噌を仕込み、常滑焼の甕に入れて毎日の味噌汁に使っていたそうです。半田は商業が盛んだったので、「作る味噌」から「買う味噌」への移り変わりも早く、行商や商店で味噌を求め人も多かったとか。今でも地元の味噌を選んで買ってくる人がいて、発酵の文化が暮らしに息づいているのを感じます。



_unga 地域コーディネーター 鈴木 晶子さん

つながりが必要 腹をくくってやる!

遠矢さんの活動では「小倉家守構想」の話が印象的でした。市が音頭を取りながら2010年に検討委員会ができ、町の遊休不動産をリノベーションして新たな価値を生み出す「屋守」活動が始まります。活動の中心となったのが「リノベーションスクール」でした。リノベーションスクールでは実際に、希望する物件を対象に出しがされ、実現に向けたサポートが行われます。遠矢さんは、オーナーと入居希望者の間に立つ調整役などを担う「北九州家守舎」を、建築家や大学教授らとともに立ち上げました。

セミナーレポート

空白から余白。余白から色彩あるまちへ

物件オーナー、プレイヤー、まち、未来にメリットあるリノベーションまちづくりの進めかた

7月21日 半田商工会議所
主催：半田市中心市街地活性化協議会

半田市中心市街地にも空き物件が年々増えてきています。そのまま放置するのと活用するのでは、まちの未来に大きな変化が。リノベーションまちづくりの実績のある田村さん、遠矢さんをお招きし、お話を伺いました。

空白と余白は違う 余白は可能性だ!

「空白とは、虚無。負動産。そこには誰の意識もない。余白とは、可能性。不動産。誰かの意思がそこにある」と、違いを語ってくれた田村さん。

田村 晟一郎さん
株式会社タムタムデザイン代表取締役。設計事務所を経営している一級建築士。北九州市周辺を中心に、リノベーションや転貸事業に関わる。テレビ東京「ガイアの夜明け」に取り上げられたことも。

遠矢 弘毅さん
株式会社北九州家守舎代表取締役。起業支援研究家。北九州市立大学大学院特任教授。自身もフリースペースカフェを運営しながら、全国でリノベーションまちづくりのコンサルティングを手掛ける。



ん。それを意識しながら、関わる人それぞれポジションを明らかにし、マッチングの仕方考えることが大切と言います。例えば、自身のもつ物件を、元気な人たちに使ってほしいと考えるオーナー。自分サイズで起業したいと考える人たち。それを支えるデザイナーや建築業者、取組を面白がってDIYや発信の力になってくれるサポーターなど。そんな人たちが田村さんがつくったものの1つが「寿百家店」。シャッター通りになりつつあった商店街の一角をリノベーションし、シャッター1枚サイズの空間に1店舗が入れるよう仕切り直し。狭いけれど、家賃も安価なところからスタートする人たちが集まり、商店街の雰囲気も明るくなりました。「ワークショップをたくさんしながら、輪を広げました。寿百家店が目に見えるようになったら、あそこの空き店舗こんな風に使えるかな」という相談が増えましたね」

「何かやりたい人とオーナーをつなぐ。金も借りる、人も探す、テナントも借りる、クレーム対応もする。デザインもする。そこにいたら困る人を退去に導くことも。何でも屋でしょ。でもまちづくりってそういうもん



セミナー開催風景



まち歩きの様子

リノベーションを検討している方へ!

半田市商業施設助成事業費補助金

半田市では中心市街地および鉄道駅周辺などの商業施設の新設・改装工事費の一部を補助します。

小売業、サービス業、飲食店など、新設で最大200万円、改装で最大50万円を補助します。補助額や対象業種が区域によって異なるため、詳しくは半田商工会議所へご相談ください。申込期間は2025年12月31日(水)までですが、期間内であっても予算額に達した場合は募集を締め切りますので、お早めに。

◎問合せ/半田商工会議所 0569-21-0311